

◆teku-teku 2010★宇都宮中心街を歩く(活動記録+評価集計結果)◆

企 画■見渡す限りのシャッターの奥で ～住めば愉快か、宇都宮～

日 時■2010年 7月11日(日) 11:10～18:00頃

コース■JR宇都宮駅周辺～旧篠原家住宅(文化財見学)～大通り(防火建築帯など)～正嗣餃子店<昼食>
～二荒山神社と再開発～県庁と並木道～オリオン通り商店街～田川遊歩道散策(小さな川沿いの道)
～永井商店・青源味噌(老舗のお店)～カフェギャラリー柚・松が峰教会・fudan cafe(裏の住宅地)
～石の蔵(懇親会場)

参加者■◎河原佳明、井手幸人、今崎泰浩、大竹亮、小俣元美、梶川義実、河原日向子、栗原徹、佐々木龍郎、
原久子、脇野真澄(以上11名、敬称略、◎コーディネーター)

企画主旨■

今回のテーマは、中心市街地の疲弊と再生です。いまさら、という声も聞こえてきそうですが、東京にいると実感しにくい地方都市中心街の実態をしっかりと歩いてみたいと思います。発端は、久々に地元に戻ったKY氏から寄せられた切迫した状況報告です。極めて深刻な状況にあると言われる宇都宮の中心街(現在、全国の地方都市でも同じような状況が進行中)を歩き、都市の崩壊の恐れを予感するとともに、しかしながら、その極限状態の先にある新しい街の予兆をかいま見ます。そして、未来の都市の姿を考えます。(もちろん、名物の餃子を食べながら)

<参加者の意見・評価>

1 ■宇都宮中心部全体

評価:1.80 内訳:BBBBCCCCCD

B: JR宇都宮駅と東武宇都宮駅からなるエリアを中心部とすると、直線距離で約2kmは徒歩圏とはいえず、広すぎる。歩いてみると、魅力的な店舗や資産もあるのだが、広範囲に点在している。

B: 歴史もあり、アーケードもありの、基本はスタンダードな中心市街地であると思える。2極の中心の発展のためには、2極は徒歩では遠すぎるが、圏域としては近すぎるという微妙な距離が現行の交通体系環境下では災いしている(?)。しかし一方、印象では騒がれているほど人がいないわけではなく、要所ではそこそこ人通り、駐車待ちは存在していた。

C: 中心街の希薄化・空洞化が進み、老朽建物が放置されつつある。一部の餃子屋やパルコ周辺などは賑わっているが、観光客と中高生がほとんどのようだ。頑張っている老舗商店や新しいセンスの息吹も見られるが、中心街全体の再生方針や計画が全く見えなかった。「都市のダイナミズム」ともいうべきものが、失われてしまっているように思える。

C: 車社会を前提とすれば、都市周辺部に住宅地と大規模商業施設をつくるというのは自然な成り行きだが、その結果として中心市街地は衰退してゆく。再開発など活性化策を進めようとはしているが、ポテンシャルに合わない開発は逆効果となっている。

C: わかりやすい都市計画でできた街だなあと感じました。でも中央に置かれた商業施設の規模が大きすぎる。この施設がだめになると街への影響大ですね。

C: 車社会が進み、公共交通機関はバスのみで、市外の人にとっては利用しにくい。

C: 中心性がどんどん低下しているのだと思う。



二荒山神社参道から見る宇都宮中心街



中心街の裏通りに連なる空き店舗群

2 ■ JR駅と大通り周辺（防火建築帯など）

評価:1.60 内訳:BBBCCCCCDD

B：防火建築帯の高さを維持し、ちょっとレトロなモダンデザインのテイストを入れて建物が更新されるととてもいい町並みになると思いました。

C：駅前広場は整備されているが、街としての面白味は無い。防火建築帯の建物などは、再開発すべきとは思いますが、事業の実現性を考えるとなかなか難しそう。

C：駅は立派なのだが、大通りの商店街はシャッターを下ろし、ビルごと廃墟のようにになっているところもあり、非常にさびしい。

C：JR駅前は消費者金融の看板や大通り周辺の空き店舗が景観を損ねている。

C：かつては広い街路に共同ビルが並ぶモダン都市だったのだろう。建物コンバージョンで再生が望まれる。

C：県庁所在地であり、新幹線も止まる駅としては標準的すぎて何か物足りない。大通りの防火建築帯も老朽化しているのみで、いまひとつ現在のテイストが加えられている様子が見られず残念。通りが広すぎるか。

C：道路は広くて良いが、それだけのような気がする。



JR駅と東武駅を結ぶ大通り



大通りに沿って建つ防火建築帯の共同ビル

3 ■ 二荒山神社周辺（参道と両側の再開発など）

評価:1.20 内訳:BCCCCCDDDD

B：街中のオアシス的に緑が繋がっているのと参道に続いた道、そして参道脇に公開空間が良い。この空間を積極的に利用すると、よりベター。左側のちょっと高いマンションがもう少し低いと良かったです。

C：マンションが神社よりも高く、景観を損ねているが、広場は憩いの場として活用できる。

C：市中心部にあり、空間的にも精神的にも象徴性を持つ神社である。参道の両側を再開発して広場を設けるという計画自体は悪くないと思うが、カフェなどを設けて広場に面して建物を開くべき。超高層住宅は論外。

C：かつては見晴らし台から町を一望できる神社だったのだと思われるが、隣接するマンションなど、神社に影を落とす建築物の乱立にはがっかりである。「ばちがあたる」という言葉は死語なのでしょうか。

C：街の中心的存在である神社そのものの良さやロケーションは従来通りであるが、やはり目の前にそびえるマンションの威圧感は大い。100%否定はしないが、後生に禍根を残すことになるだろう。

C：街の象徴的な存在の神社の前に、超高層住宅は似合わない。地方都市では超高層にしなくても事業は成り立つはずであり、もっとよく考えて整備をすべきだった。

D：神社前の高層住宅の駐車場の解決策はこれしかなかったのでしょうか？

D：あのマンションは街の顔を台無しにしている。神社の参道はもう少しパブリックなものではないか。



街の中心にある二荒山神社の参道



参道脇の再開発で建設中の超高層住宅

4 ■ 栃木県庁と並木道

評価:3. 20 内訳:AAABBBBBBCC

A：県庁へ続く並木道は心地よい陰を落とし、歩いていて気持ちの良い道だが、車が足となっている宇都宮では歩行者がほとんどいないのが残念である。

A：旧県庁の一部保存は評価できるが、配置は「？」。並木道はとても素晴らしい空間でした。

B：美しい並木道の両側に立派な公共建築が並び、突き当たりにはモニュメンタルな県庁舎がそびえるというパロッキ的空間構成が美しい。ただ、建替え後の県庁舎は歩行者より車アクセスを優先しており、いただけない。

B：県庁の建物に向かって続くマロニエの並木道の空間は非常にいい。宇都宮では二荒山神社より県庁の方が偉いということか。

B：県庁舎は、旧庁舎を残して新庁舎との調和を図っているが、やや立派すぎる。

B：きれいだが、人通りが無いことが残念。使い方はあるはず。

C：並木道と公共施設の空間で散歩には適していますが、個人的には。。。



新県庁舎(左)と移設保存された旧県庁舎(右)



県庁・文化センター前の並木道

5 ■ オリオン通り商店街（宮カフェなど）

評価:2. 40 内訳:ABBBBBBCCCD

A：2階以上の空き店舗は多いようでしたが、路面店舗は宮カフェなどが埋め込まれて活気づいており、衰退は何とか踏み留まっているような感じ。予想外にがんばっている印象。

B：空き店舗はかなりあるが、アーケード内の出店が出ているためか思ったより人通りがある。宮カフェはなかなかセンスがいい。

B：もっとシャッター街かと予想したが・・・アンテナショップを東京でなく中心街につくる試みはユニーク。

B：思っていたより全然元気ではないか！と思いました。

B：そこそこ人は歩いていたが、本来は栃木県第一の商店街としてもっと賑わっていてもいい。108の跡地広場を活用したい。

C：催事を開催していたため普段よりも人出があったようだが、よく見ると2階以上はほとんどが空き店舗になっていた。特色ある店舗も少なく、魅力に乏しい。アンテナショップ「宮カフェ」のレモン牛乳のアイスクリームはとてもおいしかった。

C：空き店舗が目立ち、若者向けと老舗が混在している。歩行者は10代が圧倒的に多い。

C：当日は賑わっていたが、生活の賑わいが弱い。郊外のショッピングセンターに取られてしまったので仕方がないのでしょうか。



イベント開催時のオリオン通り商店街



ユニークなアンテナショップ「宮カフェ」

6 ■小さな川沿いの道（田川遊歩道と店舗群）

評価:2.88 内訳:AABBBBBBCCC—

A：リノベーションされた小さな雑貨屋が並ぶとても心落ち着く散歩道。

A：若い女性向けのお洒落なお店がいくつかあった。

B：中心街の一步裏側に小さいながらも個性的で居心地良さそうなお店が並び、街の変化の兆しが見られる。

B：表通りに比べ、ホッとできる空間。

B：滝がありかなり作りこまれているのに人々が散策など利用されていないのが残念。水辺との親しみを感じる植栽になるともっとよいですね。小さなお店がもっと線的に広がると散策がとて楽しくなりそう。夜にちょうちんや風鈴をさげるなど、歩く楽しみを知ってもらうイベントをやってはどうですか。東京都の目黒川沿いのお花見はいろんなお店が出て賑わっている。参考にされてはいかがでしょうか。

B：例えば東京の目黒川沿い（中目黒～代官山）のような個性的な店舗が立ち並ぶしゃれた小路になれば遊歩道のようになって良いのだが、今のままでは裏通りの印象の方が強い。

C：水と緑の組み合わせだが、水には近づけず、植栽もゴチャゴチャしているので、せっかくの水面が活かされていない。

C：近所や家の前にあると良好な空間であるがそれ止まり。もう少し活用や活性化の糸口が欲しい。



田川遊歩道とアンティーク道具屋「福や」



川沿いの道に点在する新しいお店

7 ■老舗の商店（永井商店、青源味噌など）

評価:4.20 内訳:AAAAAABBBB

A：老舗の豆屋（永井商店）と味噌屋（青源味噌）は、いずれも販路拡大、新規参入（餃子）の成功と、積極策が功を奏している。地元密着から一步踏み出している印象を受けた。永井商店では、冷たい麦茶に感謝。青源味噌では、ウエルカムボードがあった。いずれにも通じる「もてなしの心」に、成功者の本質を垣間見た。

A：ここの豆が懇親会の席でいただく豆腐につながるとは。河原流まちづくりの第一歩を見せて頂きました。

A：郊外の大型店舗にはない、ここでもしか買えない厳選された素材を扱っている。

A：やっぱり本物は魅力的です。

A：県都にふさわしい存在だと思う。

A：現代にあって伝統の価値をしっかりと守り、それを活かし続けていることがすばらしい。ただ、残念ながら街の現状は、こうした老舗の貴重な持ち味を十分に活かしているとは言い難いようだ。

B：せっかくのお店、どこかの通りとのつながりができるとよいですね

B：紹介を受けないとなかなか訪れることのないお店。街の資源の再発見へとつなげたい。



豆を扱う老舗・永井商店



老舗の味噌屋・青源味噌の石蔵

8 ■裏手の住宅地（松が峰教会、fudan cafe など）

評価:3.89 内訳:AAAABBBBBB—

A カフェで、大勢の若者が楽しい時間を過ごしているのを見て、こういった洒落た店舗は、人気が高いことがわかる。休業日で残念だった器屋&レストランも魅力的だった。どちらの店舗も広い駐車場を有し、利用者は散策して一休みして散策して、というのではなく、車で出向き、お茶をして、車で移動する、という行動パターンである。

A：かつての中心街は商業業務が主役であり、教会や倉庫などは周縁的存在だったであろう。それが、いまや逆に中心街の魅力スポットになりつつある。美容院やカフェの試みはセンスがあふれている。

A：古い建築物を活かしたカフェなど、周囲との調和が図られたお洒落なお店がいくつかあった。

A：新しい萌芽を感じさせる。

B：街中に、ところどころ魅力的な店などがあるが、まだ、街全体の魅力とはなっていない。

B：良いお店があるので、散策などのつながりができるとよい。スポット的なのが残念。

B：教会は素晴らしいですが、改修時に取り替えた既成のサッシはいただけない。

B：歴史ある街であるということの再認識とカフェや突然現れる妙な建築などは、バックグラウンドのポテンシャルの高さを感じさせる。



大谷石造のカトリック松が峰教会（1932年）



新しいセンスが光る f u d a n c a f e

9 ■石の蔵（創作料理・カフェ&ショップ）

評価:4.33 内訳:AAAAAABC—

A：蔵を活用した飲食店だが、石の素材感を活かしてセンス良く改修されているので、とても居心地のいい空間になっている。

A：すばらしい空間、味、サービス！ 古く役割を終えた建物も、こういう使い方ができるという実証であろう。至福の時であった。

A：築50年の石蔵を活用した創作料理屋で、野菜や肉、味噌など栃木県産の食材にこだわっている。

A：贅沢な空間 盛り付けの美しさに感激です。お手本となって頑張ってもらいたいです。

A：大谷石でできた建物、改修された内装とても素晴らしい。もう一度行ってみたい施設です。

A：空間も料理も素晴らしかった。

B：飲食施設としてはすばらしすぎる。まちなかにあったら最高ののだが。



50年前の食糧倉庫を転用した「石の蔵」



大谷石を活かした「石の蔵」の内部

10 ■宇都宮の街は今後どうしていけばいいか（自由記入）

●どうすればいいのかは市民が考えることだが、少なくとも、かつての賑わいを取り戻すことは出来ないということ認識すべき。その上で、中心市街地がどのような役割を担うことが適当なのかについて、市民で議論をしてゆけばいいと思う。（TK）

●JR宇都宮駅と東武宇都宮駅からなるエリアを中心部とすると、直線距離で約2 kmは徒歩圏とはいえず、広すぎる。車は点と点を結ぶには非常に便利であるが、そぞろ歩く人々がいなくなってしまうと、商店街も町も活気がなくなってしまう。車が足となってピンポイントで移動する市民を取り込めるような店舗や魅力的な施設を点在させるのではなく、点から線へ、線から面へと広げ、車は家路に着くまでパーキングに停めて、歩いて散策したくなる町にできれば、街中を歩くことの楽しみが見出せるようになるのではないと思う。今回我々は歩きに歩いたが、市民がここまで歩いて移動して街中を散策するかどうかは疑問である。JRと東武宇都宮間の巡回バスのようなものが走れば、市民の足になるのではと思う。（MW）

●郊外開発が進展してしまっても、これくらいの大きな都市であれば、一定程度、一定内容のまちなか消費需要は残りうると思う。一部始まりつつあるが、その仕掛けやきっかけを大事に持続して欲しい。（MO）

●かつての中心市街地としての役割は終わったかもしれない。しかし、歴史や文化を味わい消費する場として、中心市街地は必要であり、成立しうる。そのような機能を発信していくと良い。（YK）

●現存する石蔵や歴史的建造物等を活かして、郊外にはない中心市街地の魅力を作っていくべき。（YIm）

●商業的な機能が周辺に出て行くのであれば、中心部でしかできない文化（現在進められているJAZZ、カクテル等）機能を充実していけばいい。そのうちに、住宅や新たな商業機能が付随していくのでは。（YId）

●しっかりと伝統を守り発展させている老舗商店や、小さいながらも新しいセンスが光るショップが点在しており、こうした試みを大切に広げていくことは重要であろう。しかし、県庁所在都市の中心街としてはそれだけでは不十分であり、いわば「都市構成のダイナミズム」というべきものが失われているような印象を持った。機能だけでは、郊外部の利便性・効率性に対抗できないだろうから、かつて二荒山神社の参道や県庁前の並木道などが有していた精神的な求心力を、新しい形で回復・再編する必要がある。都市全体の構成感とその場所の意味合いを兼ね備えた卓抜な都市デザインと、コンバージョンなど地元主導の新しい試みを支援する仕組みが求められよう。（RO）

●①若者に自主運営のストリート：若者が自主運営をして盛り上げるみたいな場をどこかに作ったらよいと思います。例えば川沿いのエリアなど、宇都宮のあの通りはおもしろいと他のエリアから呼べるような。オリオン通りは既に商店会とかできあがっていいので別のエリアに。

②50 歳以上の方が過ごせ、広がりや展開のある場：宇都宮には文化があるのに大人の文化の街＝居場所がないように感じました（気がつかなかったようでしたら申し訳ないです）。消費だけに終わっている街に見えて、良いものや面白いものがアチコチに散在して連鎖していないのはもったいない。滞在して楽しい場所とのつながりといいですね。例えば美術館やギャラリーとつながり、歩くと楽しい通りやカフェなど。また、50 歳代や60 歳代はどこに？ 居たい場所はどこ？ リタイアで時間のゆとりができる60 歳代がぶらぶらと歩けるつながりや広がりがあるとよいですね。そうなれば宇都宮に戻ろうって感じになる場所があると思います。

③宇都宮魯山人でアピール：最後の「石蔵」に行ったとき、そして河原さんのライフスタイルを見て「宇都宮魯山人ライフ（スタイル）」という言葉が流行らせたらいいなって。益子の器もありますしね。京都に対抗するわけではないですが。（HH）

●内需としての都市居住の導入（≠超高層マンション／建蔽率 40%容積率 200%5 階建程度）／リノベーションによる商業、居住導入／マップ作成（TS）



保存公開されている旧篠原家住宅（1895 年）



空き地を利用した宇都宮屋台横丁

11 ■その他、今回の企画に対する感想など（自由記入）

●まちづくりの成功事例を見るだけでなく、二荒山神社周辺のような失敗例を見ることも非常に重要だと思います。昼の餃子は、とても美味しかったです、夜のカクテルを味わえなかったのが少し残念です。（TK）

●大黒柱が立派な旧篠原家住宅、立派な蔵を有する老舗の青源味噌。まさかの貸し切りで食することができた正嗣の餃子は本当に美味しかったです。どうもありがとうございました。（MW）

●今回、初めて参加させていただきました。オリオン通りが意外と賑わっていて驚きました。二荒山神社の前のタワーマンションは、石段を登っていくごとに存在感が増していくように見えました。歩いてみて初めて分かることがあるんですね。宇都宮に住んでいた頃は学校と家の往復ばかりで街の景色に注意を払うこともありませんでしたが、それはもったいない事だったなと感じました。今住んでいる街も、たまには時間をかけて歩いてみようと思います。（HK）

●私は宇都宮市在住だが、皆さんのご意見をお聞きして、改めて中心市街地の空洞化の深刻さを感じた。しかし、実際に町を歩くことで、新たな魅力を再発見することができた。（YIm）

※このたびは宇都宮にお越しいただきまして誠にありがとうございます。さて、宇都宮市の宣伝で大変恐縮なのですが、宇都宮市中心部から北西に約6kmの距離に大谷石の産地である大谷町があります。現在も採石しているのですが、この大谷石採取上跡地には全国にも類を見ない大規模な地下空間があります。平成元年に起きた大陥没以来、観光客が遠のき、ひどく寂れていますが、巨大な地下空間は一見の価値があります。

(<http://www.oya909.co.jp/>) ぜひまた宇都宮にお越しいただけたら幸いです。今後ともどうかよろしく願います。（今崎泰浩）

●宇都宮には3回ほど行っていますが、表面的にしか見ていないのでディープな宇都宮を見たくて参加させていただきました。餃子以外のお豆、豆腐などの食文化が体験できてよかったです。餃子以外考えたことがありますでした。いろいろとありがとうございました。（HH）

●河原さんが京都、福岡等で培った建築技術やもてなし文化のノウハウ等を宇都宮に展開されることを期待しています。（YId）

●郊外や準郊外に展開しているSCを体験できたらより理解が深まったと思います。（MO）

●JR駅前との比較のため、東武宇都宮駅および東武百貨店周辺の様子も見かけたが、宇都宮の様子を把握することが出来ました。裏通り、横町にいろいろな資源と可能性があることを実感しました。スリリングで随所にサプライズがある企画を組んだ河原さん、的確な解説と案内をしてくれた佐々木さん、今崎さんに感謝いたします。（YK）

●宇都宮をじっくり歩くのは初めてでしたが、深刻な中心市街地問題とそこから生まれ出つつある新しい萌芽を感じ取ることができ、とても楽しめました。豪壮な保存旧家、美味しい餃子屋、信じられない神社隣接再開発、驚くべき県庁舎建替え、意外に元氣な商店街、しっかり根付いた老舗商家、そして斬新なセンスのコンバージョン・・・いずれも興味深いものばかりでした。と同時に、宇都宮のまちづくりの難しさも感じました。いつもながら、河原さんの奥行きのある企画に圧倒されました。また、佐々木さんの的確な解説で理解が深まりました。ありがとうございました。（RO）

●久しぶりの宇都宮、見捨ててはいけないと再認識。再生のための努力していきたい。（TS）



地元宇都宮市民御用達の正嗣餃子店



裏通りの f u d a n c a f e



二荒山神社にて